自給自足の夢が生んだ安全・安心なおいしい卵

「いつか自給自足で生活したい」

平成13年春より高岡で新規就農第1号として生活する田中勝吉さんと民世さんはそんな夢を実現させたご夫婦です。

田中さんたちの「わがまま農園」では、ジャガイモやトウモロコシなどの野菜を栽培しているほか、「自給自足するならやっぱり卵も」とニワトリの平飼いも行っています。「現在130羽いるニワトリはボリスブラウンという茶色い卵を産む品種。餌には市販の配合飼料に畑でとれたジャガイモや麦・米などを混ぜて与えています」。ニワトリたちが産む卵の数は1日平均60～70個ほど。「寒さに強いのか、夏よりも冬の方が多く産みますね」。

農園の卵は1個1個丁寧に水洗いし、布で磨きます。田中さんの農園ではそれを新聞紙にくるんで販売。民世さんのアイデアで、一般的なプラスチックのパックより、ごみが少なくて済むと好評です。「卵は農園で直接販売しています。地元の人はもちろん、隣の当別町や札幌市から買いに来る人も多いです」。安心でおいしい「わがまま農園」の卵。人気のため売り切れの場合もあるとのことですが、まずは一度、足を運んでみませんか!

▲「まずは卵かけご飯で味わってみて!」と民世さん。卵本来の味を存分に楽しめます。

▲地面で飼育する「平飼い」の鶏舎。

▲ボリスブラウン

▲卵は1個1個丁寧に磨かれます。

問合せ
わがまま農園
高岡87-3　☎60-3008
5個1セットで200円～

◎石狩随想 18

「建国記念の日」に当たり

◆この国の形づくりは、「時代の病」に突き当たり、激流に翻弄(ほんろう)される花びらのごとく変則的な動きを繰り返している。やがて見えてくるであろう新しい日本の形はいかなるものか、今は予測不能。人口一つ取っても、2030年には1500万人ほど減少するとの見通し。国を挙げて制度設計の見通しを考えねば国は滅びることにもなりかねない。◆一方で多くの市民はナショナルスタンダード(平均水準)の底上げに期待感を抱き、日々努力をしている。しかし、現実にはナショナルミニマム(最低保障)の維持すら流動的であると言わざるを得ない。◆2月11日の「建国記念の日」を迎えるに当たり、国の形づくりを問いながら、社会保障・医療・介護・教育などの将来設計に思いを巡らしてみるのはいかがだろうか。冬の3連休、頭の中は真夏のごとく熱く悩み深きこととなる。◆気が付けば「大寒」も過ぎ、「立春」も近いとは言いながら真冬日続く毎日、「冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず」などと『枕草子』にある忘れゆく文節を不確かにもつづってみると、退嬰(たいえい)的な「時代の病」を克服する凛(りん)とした文化と精神の存在を見つけ出すことができ、国づくりの原点を垣間見もする。

(市長)

広告